



Rokko Catholic Church Bulletin

カトリック六甲教会 教会報

2016

9

No.537



南スーダンでのマリアさまの助け

イエスのカリタス修道女会会員 下崎 優子

平和を知らない人々がいる。その人たちはどのように平和を実現していけばよいのだろうか。生まれた時から紛争があり、男性たちは戦い、女性・子どもは安全な場所を求め場所を移動していく。食べるものに事欠き、飲み水も確保できず、一生を終えていく。「神はどうしてこれを許しているのか？」とある人たちは問いかける。しかしこれは、神からのものではなく、人間の罪の故に起きていることだと私たちは知るべきではないだろうか。

私はアフリカの南スーダン共和国へ宣教者として入り、その国の現状を目の当たりにしている。しかし神は、人間を救いたいと心から願い、この厳しい状況でも奇跡を起こし、人々を救っている。

南スーダンのシスターから、一つのマリアさまの奇跡を話してもらった。この国は独立する前、イスラム教とキリスト教が共存していて、勢力の強かったイスラム教徒側からの迫害がキリスト教徒側を苦しめていた。世界中が世紀の変わり目で、喜びの中にいた2000年の年、この国では大量虐殺が行われた。そんな中でも、南スーダンのシスターたちは、イスラムの兵士たちと信仰についてお互いに語ることもあったという。その時、シスターたちはロザリオを見せ、マリアさまがイエス・キリストの母であり、祈りを取り次ぎ、力強い助け手であることを彼らに話していた。シスターたちはこの厳しい現実の中でも、信者たちにマリアさまに祈りをささげることを勧め、ロザリオを首にかけさせていた。

ある日、イスラムの兵士たちは、この村に毒ガスを撒くように言われたが、ロザリオを首にかけ、祈っている彼らをどうしても殺すことができなかった。そこで密かに森の奥でその毒ガスを撒き、シスターたち、そして村の人たち全員が助かったのだという。

いまでも、世界のあちこちで人間の幸せとはほど遠い出来事が起こっている。マリアさまに取り次ぎを願いましょう。幸せだと感じるこのことのできる世界になるように。



(聖書と典礼 2016.8.15 掲載)

忘 れ な い で !

～東日本の被災地から～

「福島心の架け橋ツアー 第3弾」に参加して

8月8日～13日迄、男女6人のシニアグループで南相馬市に行ってきました。カリタス原町ベースを拠点にして、前半は傾聴、後半は野外活動のボランティアです。今回訪れた場所は南相馬市原町区、小高区、浪江町で、地震と津波、放射能被害を受け、原発問題で町が分断された地域です。

ベース到着後、スタッフYさんに小高区(7/12避難指示解除)と浪江町(7/12車両通行禁止解除)を案内していただきました。この地域の線量は屋外で0.2mSv、室内は0.1mSv以下になっています。浪江町「希望の牧場」には300頭ほどの牛が放牧されています。酪農家Yさんは汚染された牛が汚染された草を食べ、水を飲んでどのように生育するかを観察するために飼っておられます。現在も月に1度、東京で抗議の街宣を続けておられます。

「請戸小学校」の校舎は津波被害を受けたそのままに残されています。津波は体育館の2階部分まで来て、天井からは配管配線がぶら下がり、体育館の床はえぐれ、すさまじさを残しています。校長先生の的確な判断と、山を遊び場にしていただけの子供達の誘導で全員助かったそうです。周辺は土台だけになった更地に草がぼうぼうと生え、漁場だった沖には廃材焼却場ができ、沿岸にはテトラポットを作る工場が建っています。出会うのは除染作業工員さんだけです。

2日目は休憩場所「おだかぶらっとほ一む」の店番に行きました。住民の1割しか戻っていない小高。駅周辺にはスーパーが1軒あるだけで喫茶店もありません。帰還準備に訪れる人たちが気兼ねなく立ち寄り、情報を得られる場所をとHさんが立ち上げました。午後からHさんの被災当時の思いを綴ったDVDを見せて頂きました。感動しました。息子を探しに帰ろうとしたが渋滞で進めない不運と、自転車パンクし学校に戻った息子さんの不運のおかげで助かった親子。仕事人間だったHさんは被災をきっかけに大切なものや存在を知り、生かされた自分の役割を生きようと、仕事を辞め息子との時間を大切に、友人知人の応援も得て「のらとも農園」を始め、小高の町を元気づけたいと積極的に行動しておられます。通りを行き交う人はまばらですが、関わる人たちの小高再生を願うエネルギーを強く感じました。帰りは5年ぶりに運転再開した常磐線に乗って原ノ町駅まで帰り、徒歩でベースに戻りました。

3日目午前中はカトリックさゆり幼稚園の見守り保育のお手伝い。被災後11名に減った園児が今は80名に増え、幼稚園のニーズが高まっているようです。園舎の中には人工の砂を入れた砂場があり、外は人口芝が敷き詰められています。15名の園児が登園していましたが、始まりとお弁当の時には小さな手をしっかりと合わせお祈りしていた姿が愛らしく、健やかに強く育ってくれるようにと祈りました。

午後は借り上げ住宅に住んでいる一人住まいの高齢者対象の「借り上げサロン」のお手伝いです。月2回社協の送迎付きで開かれます。このサロンを皆さんとても楽しみにされています。今回は36名の方が参加されていました。健康チェックを済ませてから6テーブルに分かれてオセロ・将棋(山崩し)・トランプを頭の体操も兼ねて楽しみました。ホールは皆さんの元気な笑い声で溢れていました。それぞれにいろいろな悩みを抱えておられるのに、現状を受け入れ進む逞しいパワーに感心させられました。

4日目、5日目は野外活動です。長袖・長ズボン・長靴・ゴム付き軍手姿の完全装備で小高ボランティアセンターに集合。参加者は40名程。帰還者、帰還予定者の家の伐採草拔きが主な仕事です。チェーンソー、刈払い機の資格を持った方を交え、20名程で午前午後と各1軒ずつ、計4軒の作業をしましたが、このあたりの家は庭も広く、畑もあり、伐採された木や抜いた草を集積所に運ぶのは結構な重労働でした。2日目の最後、シニア組は運んでも運んでも終わらない仕事にヘロヘロになりました。町の再建には力のある男性や若いボランティアの協力が不可欠だと痛感致しました。

11日の夜は“100万人の線香花火ナイト”という鎮魂と追悼イベントに合わせ、ベースの庭で線香花火の優しいあかりを眺め静かに祈りました。花火のあと、スタッフのNさんが高校生に向けて学習会をするというので同席させていただき、南相馬市の現状と今後の問題課題を聞かせて頂きました。

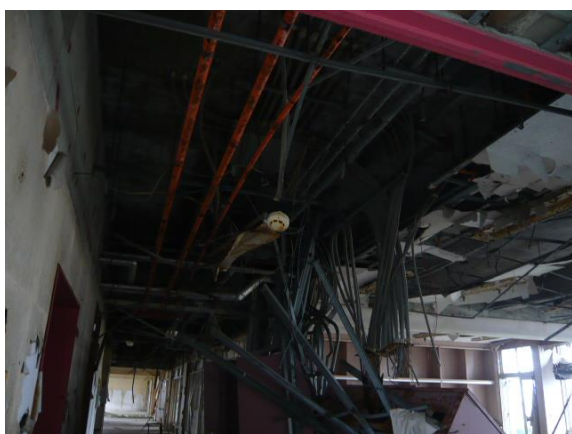
いよいよ最終日、女性2人は野外活動を通し、原町教会のお掃除に参加しました。ミサに与る方はいつも10名程でご高齢の方も多く、掃除当番日を忘れないように月決めでなさるそうです。ベースに戻り昼食のお手伝い。昼食はいつもおにぎりでしたが2品のおかず付きの豪華版です。いつも心を込めて作って下さったシスターに感謝しながらいただきました。

記念撮影を済ませ、感謝と再会を約束しながらベースを後に、フランシスコ会のお宅拝見に伺いました。道中、沢山のトン袋が積み上げられ白いカバーで目隠しされている場所を通りました。20分ほど走った山裾にシスター方のお家がありました。後方には大家さんのとてつもなく立派な家とバンガローが建っていました。三方を山に囲まれた静かな自然豊かな場所です。立派な床柱を備えた床の間は十字架上のイエスと船越桂のマリア像が置かれた簡素で静かな空間でした。

5泊6日の福島ツアーは無事に終了しました。ボランティアが快適に過ごせるように配慮くださった原町ベーススタッフの皆様、見守って下さった神様に心から感謝いたします。

福島の皆様が考えに考えて今精一杯生活されている現実を目の当たりにして、ささやかでも応援できるつながりを持ち続けたい、元気になっていく福島を見たい、そして、豊かな自然環境を破壊するような出来事が2度と起こらないように、私のできることを考えていきたいと思います。

帰り際、「福島に来て、見たこと感じたことを多くの方々に伝えてください。お約束ですよ！」というシスターとの約束を守り、報告文を書かせていただきました。(長瀬)



< 請戸小学校 >



< 浪江町沖の廃材処理場 >



< カトリックさゆり幼稚園の室内砂場 >



< フランシスコ会の玄関でシスター方と >



ナルドの花たより



苦しむ人々を元気づけながら、私たちはより良い世界の建設を手助けすることができのです。
(2016/8/26)

いつくしみは、単に善人になることでも単なる感傷でもありません。真にイエスの弟子であることの基準です。
(2016/8/22)

決して祈ることを諦めないでください。たとえ、祈ることが無意味に思える時であっても。
(2016/8/19)

聖母の母なる護りに皆さんを委ねます。聖母は神の栄光のうちに生き、私たちの旅路にいつも共にいてくださいます。
(2016/8/15)

多文化社会は、互いに尊重し合う中で、一致を目指さなければなりません。
(2016/8/11)

神のゆるしには限りがありません…神はゆるしを求める心を見つめておられます。
(2016/8/4)

カトリック中央協議会HP 教皇フランシスコのツイート（邦訳）より

～．～

<行事報告>

納涼の夕べ（8月20日）

— 手をつなぎ 心をつないで 夏祭り！ —



天気を心配していた我々に「晴れます」と断言されたアルフレド神父の言葉通り天気に恵まれ、13時から始まった設営は猛暑の中90分余りで終わりました。

200人余りの方が与られたミサが終ると、祭りが始まりました。人出は例年よりも多く大盛況でした。出店は地区毎に担当し、冷たい飲み物や食べ物を提供しました。中高生会と教会学校は子供たちをゲームで楽しませてくれました。皆さんが飲み物と食べ物を手に少し落ち着いた頃、イベントは6時半に始まりました。蛭田さんグループ‘ピリアロハ’はフラダンス付でハワイアンを、次に入江さんによるビートルズスタンダード、締めくくりは橋岡さんによるカントリーソングと豊かなステージに見られ、聞きほれました。浴衣姿の小さなお子さんはステージの横で踊っていました。

祭りの最後を飾る花火はベルタワーの南で行い、多くの子供たちが集まりました。小さなお子さんがご両親に手を添えてもらって花火を楽しむ様子はほほ笑ましいものでした。撤収は8時まで行わないという指示の下、終了時まで祭りの雰囲気を壊すことなく楽しみました。

また近隣にお配りしている飲み物券を持って、10家族の方が教会の門をくぐってくださいました。神様と出会うチャンスになれば幸いです。

8時からの撤収には多くの若者が手を貸してくれて、35分で終了しました。将来の教会を担ってくれる彼らは頼もしく見えました。

お手伝いくださいました方々、参加して祭りを盛り上げてくださった方々、祈りで支えてくださいました皆様ありがとうございました。初めての行事企画、力不足の私達を支えてくださいました皆様のおかげで盛況の内に終えることができました。神に感謝！！

（企画チーム 大倉）



《 各 部 だ よ り 》 各専門部会の活動をお知らせいたします

📅 小教区評議会

10月9日(日) 12:00 評議会

📅 宣教部

9月25日(日) 12:00 部会

📅 三日月会

9月19日(月) 14:00 総会

📅 社会活動部

10月7日(金) 10時ミサ後 連絡会

📅 教会学校

9月3日(土) 始業式

📅 広報部

10月2日(日) 教会報10月号発行

📅 地区会

9月4日(日) 11:30 バザー委員会
12:00 役員会

《 お 知 ら せ 》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★社会活動部より★

9月7日(水) 10時

手芸の集い(第1、第2会議室) どなたでもご参加できます。

9月10日(土) 10時

炊き出し(イグナチオホールお台所)

小野浜グランドにて、おじさん達のお話し相手や、配食だけでもOKです。

9月12日(月) 9時半

ともしび会ケーキ作り(イグナチオホールお台所)

9月18日(日) 10時ミサ後

ふれあい広場(イグナチオホール)

9月23日(金) 9時半

ともしび会ケーキ作り(イグナチオホールお台所)

ユスト高山右近列福記念講演会

ユスト高山右近 ー列福を前にー

日 時： 9月10日（土）14：00～16：00
第一部 14：00 列福、列聖とは？右近列福の歴史と意義
第二部 15：00 右近と“ミゼリコルディアの組”
講 師： カトリック芦屋教会主任司祭 川邨 裕明 神父
開 場： カトリック六甲教会 イグナチオホール
参加費： 無料
事前申込： 不要

※当日の資料「ユスト高山右近～その生涯と霊性～」
カトリック中央協議会 Web サイトからダウンロードできます。
可能な方はプリントアウトして、ご持参ください。

http://www.cbcj.catholic.jp/jpn/feature/2013/img/ukon_0612.pdf



壮年会・婦人会合同バーベキュー会

久しぶりに婦人会と壮年会と共同でバーベキューを行います。皆様のご協力をお願いします。

楽しい時間を過ごせる様に、壮年会と婦人会は小さい活動体になりましたが、これからも頑張っていきます。

日 時：9月25日（日）（時間は後日）
参加費：300円

（壮年会 安田 茂・婦人会 牛尾 啓子）



～ 教 会 受 付 休 み ～

9月22日（木）秋分の日
10月10日（月）体育の日

《 図書室からのお知らせ 》

2016年5月にアタナジオ野田さんがご帰天されました。野田さんは関わられた教会や職場（六甲中高・愛徳…）に蔵書を寄贈したいとのご遺志を残されました。六甲教会では、膨大な蔵書の内「フランシスコ会訳聖書分冊版」各分冊、「岩波訳聖書旧約」14冊（XII ヨブ記 箴言は欠）「同新約」全5冊を、教会図書室に頂くことに致しました。

野田さんのご冥福と、ご遺族の皆さんへのいつくしみに満ちたお恵みを心よりお祈りしたいと思います。

2016 年 8 月に入った図書から

☆ 回勅 ラウダート・シ 共に暮らす家を大切に —— 教皇フランシスコ カトリック中央協議会

2015 年聖霊降臨の日に公にされた回勅の待望の邦訳が出版されました。

大気、海洋、河川、土壌の汚染、生物多様性の喪失、森林破壊、温暖化、砂漠化、山積された廃棄物……。人間の活動が他者と全被造物とに与える影響に関する、連帯と正義の観点からの考察。しわ寄せを被る開発途上国と将来世代に対し、担うべき責任とは何かを問う。

☆ 教皇フランシスコ講話集 2 —— 教皇フランシスコ カトリック中央協議会 ペトロ文庫

平和は手で作るものです。平和の工場などありません。平和は、開かれた心で、毎日、手で作るものです。『福音の喜び』に込められた数々のメッセージを、ユーモアをもって温かく伝える講話集。2015.4 刊

☆ 家 族（教皇講話集） —— 教皇フランシスコ カトリック中央協議会 ペトロ文庫

神は人間を 孤独なものとしてではなく 幸せになるために 補い合いながら連れ立って歩むものとして造られました。2015 年に行われた家庭についての連続講話と関連する講話を収録。今日の家庭が直面する困難と、家庭の温もりを社会にまで広げていくよう訴えます。

☆ 教皇フランシスコのことば365 —— マルコ・パッパラルド 編 女子パウロ会

さまざまな場面で語られた教皇フランシスコの言葉 想いあふれるフレーズが集められています。1 日 1 ページ（1 行の日もあります）毎日を豊かな祈りの日へと変えてくれます。一度見て気に入ったら、手元に一冊置きましょう。



みんなの広場

同じ空の下、同じ船に乗っている皆様へ

何もかもが急速に移り変わっていく今の時代にあっては、各々が急ぎ立てられ、一つ屋根の下に住む家族や共同体ですら互いに向き合い同じ気持ちや時間を共有することができなくなりつつあります。つまりそれは、心をつなげる「仲間」を失いつつあるということです。

障がい者権利条約（以後、権利条約）をご存知ですか？ 日本カトリック障がい者連絡協議会の会報「わ」に掲載された NPO 法人日本障がい者協議会代表の藤井克徳さんの文章を参考にご紹介します。

「権利条約は、どこを切り取ってもキラキラしています。ここでは三つの点でそのすばらしさを紹介しましょう。

一つ目は、障がい分野に関する初の世界ルールが確立したことです。例えば『障がいのある人にとっての意思疎通』や『障がいに基づく差別とは何か』などを、定義として明文化しています。また、これまであいまいだった障がいのとらえ方についても、はっきりとした考え方を打ち出しました。要するに、障がい分野についての共通言語が出来上がったのです。これによって、この分野の国際交流や共同研究などが飛躍的に発展するのではないのでしょうか。

二つ目は、障がいのある人にとっての『北極星』を得たことです。北極星とは、誰もが一致できる目標という意味です。障がい分野をめぐるのは、これまで障がいの種別や立場によって意見が分かれがちでした。権利条約はこれを束ねてくれました。権利条約のベースには、『支援にとって最も大切なのは、一人ひとりに焦点を当てること(合理的配慮)』や『ものごとの決定過程への障がい当事者の実質参加(当事者本位)』などの考え方が横たわっていますが、これらは関係者のすべてが

合意できるものです。

三つ目は、社会に対するイエローカードであることです。権利条約は、障がいのある人の支援にあたっての考え方や方向性を示していますが、同時に社会のあり方についても警鐘を鳴らしているのです。かつて国連は、『障がい者を締め出す社会は弱くもろい』と言いましたが、残念ながらこの傾向は強まっています。社会のあり方や標準値を定める上で、障がいのある人の存在やニーズを尊重すべきというのも権利条約なのです。

日本政府は、この権利条約を2014年1月に正式に受け入れました。国際条約でもある権利条約を個々の団体の政策提言や運動にも積極的に生かすべきかと思います。身近な人々や地域に広げていきましょう。」
(反橋)

天使のこと

天使と言われてまず思いおこすのは何でしょうか。いわゆる「受胎告知」の美青年聖ガブリエル、それとも甲冑に身を固め、蛇を踏みつける聖ミカエルか。聖ラファエルの姿は見た記憶がありませんが、旧約聖書のトビト記に聖ラファエルの面白い話があります。クリスマスカードには羽の生えた愛らしい男の子でしょう。



天使は見えません。触れることもできません。それでも時々いろいろな形で現れます。聖書に現れる天使の最初は創世記3:24、「こうしてアダムを追放し、命の木に至る道を守るために、エデンの園の東にケルビムと、きらめく剣の炎をおかれた」ときでしょうか。旧約聖書には天使がいろいろな形で現れています。

新約聖書ではマタイに聖ヨセフに現れた天使、ルカではザカリアに現れ洗礼者聖ヨハネの誕生を告げています。黙示録では多くの天使が現れています。見えず触れ得ない天使を表すのに、古来いろいろな工夫を重ねてきました。

知ろうが知るまいが、認めるか認めないかに関わらず、見えず触れることがないために気付かないでいますが、わたしたちを守るために一人残らず存在の初めから一位の天使が遣わされています。それでも道を踏み外すのは天使がサボっているのか、それともこちらがよほどの豪傑なのか。悪魔は神に背いた天使です。

最近あまり言われなくなりましたが、1年12ヶ月それぞれにテーマがあります。5月の聖母の月、6月は御心、10月はロザリオ、11月の死者は知られています。しかし9月の天使はあまり意識されていないようです。

9月29日は三大天使、聖ミカエル、聖ガブリエル、聖ラファエルの祝日です。普段意識することがないかもしれない天使のことを思いおこしてみましょう。
(ヨハネ 三好)

教会報 10 月号の発行は、10 月2日(日)です。 原稿は9月 18 日(日)までに教会受付へご提出 ください。FAX 及びメールでも受付いたします。 (広報部) http://www.rokko-catholic.jp	カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会			
	〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21			
	電 話	0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6		
	F A X	0 7 8 - 8 5 1 - 9 0 2 3		
	発行責任者	アルフレド・セゴビア		
編 集 広 報 部				